

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地															
専門学校 ヒコ・みづの ジュエリーカレッジ		昭和54年5月1日	水野 倫理	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-29-2 (電話) 03-3499-0350															
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地															
学校法人水野学園		昭和58年4月1日	水野 孝彦	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-29-2 (電話) 03-3499-0350															
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士														
文化・教養	宝石専門課程	ジュエリーデザイン科 (ジュエリークリエイターコース)		平成25年文部科学省告示 第2号	—														
学科の目的	ジュエリーデザイン科ジュエリークリエイターコースは、ジュエリー・アクセサリ業界において、商品開発(企画・デザイン・製作)ならびに商品販売、および関連する商品知識を持ち、企業で活躍する人材または起業する人材を育成することを目的とする。																		
認定年月日	平成28年2月19日																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技												
3年	昼	3408	156	128	6428	0	2206												
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数													
144		189	73	6	5	11													
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価基準は、90点以上をA、80点以上90点未満をB、70点以上80点未満をC、60点以上70点未満をD、59点以下はF(不可)とする。また評価には値しないが習得レベルに達したと判断された場合はPとする。 成績評価は、課題物評価、試験等により行う。														
長期休み	■夏期休業 8月1日～8月31日 ■冬期休業 12月20日～1月10日 ■春期休業 4月1日～4月14日		卒業・進級条件		・学校長および教職員による卒業・進級判定会議において認定されること。以下の①～④を総合的に判断して認定する。 ①課題物評価 ②出席率 ③授業態度 ④成績 ・学費を完納していること。														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ① クラス担任制および専用学生窓口を設け、学生が話しやすい環境を整えている。 ② 履修不良の学生に対して、個別の放課後指導・追試等を実施している。 ③ 公的奨学金、学校独自の奨学金制度を導入している。 ④ 学校提携の心理カウンセラーによるカウンセリングが受けられる体制を整えている。		課外活動		■課外活動の種類 国内外コンテスト参加、学園祭、海外研修旅行 など  ■サークル活動: 無														
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) (株)ミキモト、(株)emデザイン、(株)A&S など ジュエリー業界、ファッション業界等への就職 ■就職指導内容 進路希望調査、就職ガイダンス、ビジネスマナー・身だしなみ講座、業界研究、ポートフォリオ制作指導、履歴書添削、エントリーシート添削、模擬面接、学内企業説明会、企業見学会、学生企業マッチングイベント など ■卒業者数 : 54 人 ■就職希望者数 : 32 人 ■就職者数 : 32 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 59.3 % ■その他 22人の内訳 ・進学者数: 10人 ・アルバイト: 2人 ・起業/独立: 2人 ・帰国: 5人 ・不明: 3人 (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貴金属装身具技能検定2級</td> <td>②</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>貴金属装身具技能検定3級</td> <td>②</td> <td>25人</td> <td>12人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 上記資格は、本校在学期間を実務経験と認定されているため、在学中に受験できる。			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	貴金属装身具技能検定2級	②	4人	4人	貴金属装身具技能検定3級	②	25人	12人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
貴金属装身具技能検定2級	②	4人	4人																
貴金属装身具技能検定3級	②	25人	12人																
中途退学の現状	■中途退学者 9名 平成30年4月1日時点において、在学者177名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者168名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済上の理由、健康上の理由、就学・通学困難 など ■中退防止・中退者支援のための取組 担任制、出席状況・課題提出状況を書いた保護者通知の発送(年2回)、学校長メールアドレスの全学年公開、専門医によるカウンセリング、学生相談、個別面談など。中退者からの希望があれば、就職支援のための個別相談を実施。中途採用求人公開なども実施している。		■中退率 5.1%																
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 「3年次学費減免制度」「新入生奨学金制度」「再進学奨励制度」「教育ローン補助制度」「親族奨学金制度」「留学生奨学金制度」 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																		
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.hikohiko.jp/about_info">https://www.hikohiko.jp/about_info</a>																		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ジュエリー・アクセサリ業界において、商品開発(企画・デザイン・製作)ならびに商品販売、および関連する商品知識を持ち、企業で活躍する人材または起業する人材を育成するために、同業界の企業と連携して以下の①～④を踏まえた教育課程の編成を行う。具体的には、新たな科目の設定、既存科目の内容・教育手法の改善、教材の開発、ジュエリーデザイナー、製作者、販売スペシャリストとして必要となる知識や技術など実践的かつ専門的な職業教育の実施に向けた協議・検討することを基本方針とする。

- ①新商品企画に関するマーケットリサーチや商品開発力の育成
- ②各種PCソフトや3DCADデザイン技術を含めた、商品デザイン力の育成
- ③オーダーメイドから量産までに対応する商品製作の技術力の育成
- ④商品の販売に関わる流通や店舗企画力、顧客対応力の育成と、関連する商品知識の習得

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、本学設置コースに該当する各業界において、その専門知識を持った人材を育成するために、各業界企業等と教育課程の編成や授業内容・方法、教材等について協議・検討を行う委員会であり、全学科合同で開催している。

委員会は、学校側から学校長・教育部長・学科責任者等、産業界からは各業界企業および業界団体によって委員が構成され、学校長に直結する諮問委員会として位置づけられる。

委員会でまとめられた意見は、学科の教育改善に優先的に反映されるべきものであるが、実習環境や教育インフラ(人的要素・執行予算等)といった経営資源の観点を考慮し、最終的には学校長または経営会議(本学校法人運営会議)に諮り決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和1年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
西田 良洋	(一社)日本ジュエリー協会	2019年4月1日～2021年3月31日	①
竹岡 一男	(一社)日本時計協会	2019年4月1日～2021年3月31日	①
飯嶋 薫	(一財)ファッション産業人材育成機構	2019年4月1日～2021年3月31日	②
横山 裕	(株)桑山	2019年4月1日～2021年3月31日	③
藤田 大	共栄産業(株)	2019年4月1日～2021年3月31日	③
大澤 重仁	(株)シャミオール	2019年4月1日～2021年3月31日	③
野村 俊一	(有)野村製作所	2019年4月1日～2021年3月31日	③
水野 倫理	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ 学校長	2019年4月1日～2020年3月31日	
酒匂 博	学校法人水野学園 教育部長	2019年4月1日～2020年3月31日	
松山 英一	学校法人水野学園 総務部長	2019年4月1日～2020年3月31日	
飯塚 ひろ子	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ ジュエリーデザイン科(ジュエリー系) コース責任者 シューメーカー科、バッグメーカー科 コース責任者	2019年4月1日～2020年3月31日	
齋藤 良	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ ジュエリーデザイン科(ジュエリー系) コース責任者	2019年4月1日～2020年3月31日	
大友 宏幸	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ ジュエリーデザイン科(ウォッチ系) コース責任者	2019年4月1日～2020年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回（8月、3月）

(開催日時(実績))

第1回 平成30年8月27日(月) 13時～15時

第2回 平成31年3月5日(火) 13時～16時

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

「卒業テスト」の科目において、CADやPC知識も確認内容に入れるべきとの意見があった。

知識テストにCADやPC知識の確認がテストとして成立するか、CADの課題提出時に知識を確認できるかの検討を行った。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

多様化するジュエリーマーケットの現状を把握し、業界において即戦力をもった人材を育成するために、連携する企業より商品の企画から製品化までの流れを享受ならびに学生作品の評価を受けることを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・企業側が求めている人材育成を見据えたテーマの提示とテーマ解説
- ・コマーシャルジュエリーの現状についての講義
- ・学生デザインへのアドバイス
- ・完成作品への総評

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
[ファッションアートアクセサリ専攻] デザイン造形実習Ⅲ-3 (商品企画・提案/PCスキルⅡ)	他業種がジュエリーを新開発することを想定し、商品の企画提案を行う。パワーポイントを用い、プレゼンテーション手法について学習する。	株式会社エーアンドエス
[シルバーアクセサリ&クラフト専攻] デザイン造形実習Ⅲ-4 (商品企画/プレゼンテーション)	異業種からジュエリーラインが立ち上げた想定のもと、企画デザイン、プレゼンテーションまで行い、商品企画の一連の流れを学習する。	株式会社エーアンドエス
[ハイジュエリー専攻] デザイン造形実習Ⅲ-6 (オリジナルブランド企画)	自身のブランドを設定し、ブランドの商品開発企画やプレゼンテーション方法等を学習する。	株式会社エーアンドエス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

- ・別途定められている「学校法人水野学園 教員研修規定」に基づき、定期的かつ組織的に研修を実施している。
- ・実務に関する知識、技術、技能などの向上のため、同業界から各職種の専門家による実践的技術・知識の研修を規定に則して計画的に実施する。
- ・指導力の習得・向上のため、人材開発や教育指導力の教育専門機関による研修を規定に則して計画的に実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「企業セミナーⅠ」(連携企業等:LVMH&Jewelry Japan)  
期間:平成30年4月5日(木) 対象:本校ジュエリー/シューズ/バッグコース 全教員  
内容:ラグジュアリーブランドLVMHの商品ライン、販売スタッフの役割やその研修内容を拝聴し、最新のデザイン傾向の理解と販売スタッフとして必要な知識を再確認する。

研修名「企業セミナーⅡ」(連携企業等:株式会社博報堂)  
期間:平成30年4月5日(木) 対象:本校ジュエリー/シューズ/バッグコース 全教員  
内容:博報堂生活者アカデミーが提唱する「生活者発想」から、創造的に働くことについてQ&A方式で考える。企業の発想の仕方を理解することで授業企画にも応用ができる。

研修名「2019トレンドセミナー」(連携企業等:SWAROVSKI GEMSTONES(シグニティー・ジャパン))  
期間:平成30年5月7日(月) 対象:本校ジュエリーコース 全教員  
内容:社会情勢を基にリサーチ分析した2019年のジュエリー独自のトレンド内容について、情報を共有した。

研修名「欧州プロダクトデザインの現場」(連携企業等:大学講師ネダ・エル・アスマー氏)  
期間:平成30年7月23日(月) 対象:本校ジュエリーコース 全教員  
内容:ベルギー・アントワープ王立芸術大学講師による大学の現状を拝聴した後、ヨーロッパのプロダクトデザイン実践における大切なことと学生指導への繋がりを学んだ。

研修名「知的財産権セミナー」(連携企業等:アスミル特許事務所)  
期間:平成30年8月24日(金) 対象:本校ジュエリーコース 全教員  
内容:ジュエリーにおける知的財産権の詳細や、具体的な申請方法を教授いただいた。学生に作品の意匠登録を勧めるなど、知的財産を生み出す指導者として、専門的かつ現実的な内容を学んだ。

## ②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ヒューマンエレメントプログラム」(連携企業等:株式会社ビーコンラーニングサービス)  
期間:平成31年3月7日(木) 対象:本校 全教員  
内容:クラスマネジメント力の向上を目的とし、①コミュニケーションの重要性を再確認する。②ヒューマンエレメントプログラムを活用して自己理解・他者理解を深める。③ケーススタディを通じてクラスマネジメントの向上を目指す。を目標に、講義・演習を行った。

## (3) 研修等の計画

### ①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ジュエリー企業研究」(連携企業等:株式会社エーアンドエス)  
期間:令和1年5月24日(木) 対象:ジュエリー全教員  
内容:ジュエリー企業の各部署の役割やチームワークをテーマに企業の新しい取り組みを知る。

研修名「ブライダル市場の現状」(連携企業等:株式会社リクルートマーケティングパートナーズ)  
期間:令和1年8月23日(金) 対象:ジュエリー全教員  
内容:ブライダル市場の現状と、カスタマー像の結婚意識について理解する。

研修名「ジュエリーリフォームの現状について」(連携企業等:株式会社ジュエリーアセットマネジャーズ)  
期間:令和1年8月23日(金) 対象:ジュエリー全教員  
内容:ジュエリーリフォーム市場の現状と、主力のデザインについて学習する。

## ②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「インストラクション研修」(連携企業等:株式会社ビーコンラーニングサービス)  
期間:令和2年3月18日(水) 対象:本校 全教員  
内容:全教員を対象にインストラクションの在り方を見直し、実習・実演を通して、お互いの指導力向上を目指す。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

## (1) 学校関係者評価の基本方針

本校では、各専攻分野の関連企業、関連団体、ならびに本校の関係者を評価委員として、学校関係者評価委員会を組織する。同委員会では、本校自己点検・自己評価報告書に基づき、学校の運営状況や当該学科の教育状況、進路状況、学校全体の設備や運営状況などに関する自己評価結果を報告し、各委員より自己評価結果の評価を受け、自己評価結果の妥当性・客観性・透明性を高めるとともに当該学科への理解促進や連携協力による今後の運営や教育の改善等を図ることを基本方針とする。

## (2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか／学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	教育理念・目的等に沿った運営方針を定めているか／中長期的な事業計画を定めているか／運営組織や意思決定機能は明確化されているか、また有効に機能しているか／人事・給与に関する規定等は整備されているか／情報システム化等による業務効率化が図られているか
(3) 教育活動	各コースのカリキュラムは目標が設定されているか、また体系的に編成されているか／教育方法は適正か、また授業評価の実施・評価体制はあるか／育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか／教員組織体制が確立しているか、また教員間の連携・協力体制を構築しているか／成績評価や進級・卒業認定の基準は明確になっているか／資格取得の指導体制はあるか
(4) 学修成果	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか／資格取得率の向上が図られているか／在校生・卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5) 学生支援	就職・進学指導に関する体制は整備されているか／中途退学者が継続して学びたい場合の支援体制、または代替えコースが設置されているか／学生相談に関する体制は整備されているか／学生の経済的側面に対する支援体制が整備されているか／学生の健康管理を担う組織体制が整備されているか／保護者と適切に連携しているか／卒業生への支援体制はあるか
(6) 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか／学外学習やインターンシップなどの教育体制を整備しているか／防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動は、適正に行われているか／入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか／学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか／予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか／財務について会計監査が適正におこなわれているか／財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	関係法令・設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか、また個人情報保護に関して十分な対策が練られているか／自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか／学校関係者評価委員会を実施しその結果を公開しているか／教育情報の公開は適正に行われているか
(10) 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか／学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11) 国際交流	留学生の受入れ・在籍管理等において適切な管理体制が整備されているか／グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みが行われているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

項目全体としては一定の評価が得られた。

「項目1 教育理念・目的・育成人材像等」では、アドミッションポリシー、ディプロマポリシーの明文化および公表についての検討を求められたことを受け、次年度に明文化し、HP上にて公表するに至った。

「項目10 社会貢献」において、学生のボランティア活動支援についてアドバイスをいただき、学生向けWEBサイトや学内掲示を通じて積極的に奨励するに至った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
----	----	----	----

西田 良洋	(一社)日本ジュエリー協会	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
竹岡 一男	(一社)日本時計協会	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
飯嶋 薫	(一財)ファッション産業人材育成機構	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
横山 裕	(株)桑山	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
藤田 大	共栄産業(株)	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
大澤 重仁	(株)シャミオール	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
野村 俊一	(有)野村製作所	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
吉田 昌充	東日本ハンドバッグ工業組合	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: [https://www.hikohiko.jp/about\\_info](https://www.hikohiko.jp/about_info)

公表時期: 令和1年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育理念をはじめ、育成人材像、当該学科の教育内容などに加え、施設設備、財務状況、学校組織図などの運営内容についても本学ホームページや学校案内などの冊子に掲載する。また、学生の教育成果として、毎年展示会や発表会を実施する。

これらを実施するにあたり、来場者を促す取り組みとして、業界各企業団体、在校生や保護者、入学希望者、卒業生など、関係者の理解を深め連携および協力の促進に資するため、積極的に情報を提供することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育目的／校長名／所在地／連絡先／沿革・歴史／教育理念
(2)各学科等の教育	入学者に関する事項(出願条件、入学者数、卒業・成績評価基準等)／カリキュラム／進級・卒業の要件等／資格・検定試験合格実績／卒業後の進路
(3)教職員	教職員数／教職員の組織／教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況／実習・実技等の取組状況／就職支援等への取り組み状況
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況／課外活動
(6)学生の生活支援	学生支援の取組状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い／活用できる経済的支援措置
(8)学校の財務	学校財務の状況等
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果／評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	—
(11)その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: [https://www.hikohiko.jp/about\\_info](https://www.hikohiko.jp/about_info)

授業科目等の概要

(宝石専門課程ジュエリーデザイン学科 ジュエリークリエイターコース) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			デザイン基礎実習Ⅰ-1 (パース技法 基礎Ⅰ)	透視図法の基本を習得し、ジュエリーレンダリングの基礎を学習する。	1前	40			○	○		○			
○			デザイン基礎実習Ⅰ-2 (デザイン展開 基礎)	具象物をモチーフにし、ジュエリーにおけるデザイン展開の方法や、二面図による製図表現を学習する。	1前	32			○	○		○			
○			デザイン基礎実習Ⅰ-3 (パース技法 基礎Ⅱ)	透視図法を応用し、ジュエリーレンダリングにおける基礎とその表現方法を学習する。	1前	32			○	○		○			
○			デザイン基礎実習Ⅰ-4 (ジュエリーデザイン 基礎Ⅰ)	ジュエリー独特の立体表現を理解し、様々なデザインリングの表現方法を学習する。	1後	48			○	○		○			
○			デザイン基礎実習Ⅰ-5 (宝石表現)	ジュエリーデザイン画の描き方や、宝石表現方法の基礎を学習する。	1後	40			○	○		○			
○			デザイン基礎実習Ⅰ-6 (リサーチからのデザイン Ⅰ)	ジュエリーショップをリサーチし、設定ターゲットに合わせたセットジュエリーのデザイン展開や、プレゼンテーションを学習する。	1後	64			○	○		○			
○			宝石研磨	原石のカットからポリッシングまでの基礎を学習する。	1後	24			○	○		○			
○			コンピューター演習 (CADによるリング制作 基礎)	CADソフトの基本的な操作と、出力した立体造形物の制作工程の基礎を学習する。	1通	32		○		○		○			
○			メイキング基礎実習Ⅰ-1 (リング制作 基礎)	基本形状のリング制作を通して、ジュエリーメイキングの基礎技法と使用工具の名称や取り扱いを学習する。	1前	96			○	○		○			
○			メイキング基礎実習Ⅰ-2 (ワックス造形 基礎)	ワックス素材の種類や特性を理解し、ワックスによる原型制作の方法および鑄造の基礎知識と仕組みを学習する。	1前	72			○	○		○			
○			メイキング基礎実習Ⅰ-3 (覆輪留め技法)	覆輪留め技法による1個石リングの制作工程および仕上げ方法を学習する。	1前	32			○	○		○			
○			メイキング基礎実習Ⅰ-4 (爪留め技法)	爪留め技法による1個石のペンダント制作を通して、パチカンを含めた制作工程および仕上げ方法を学習する。	1後	56			○	○		○			
○			メイキング基礎実習Ⅰ-5 (立体造形 基礎Ⅰ)	粘土・WAXの2種類の材料を使用し、具象物を模刻することで造形力の基礎を学習する。	1前	32			○	○		○			
○			メイキング基礎実習Ⅰ-6 (立体造形 基礎Ⅱ)	紙を材料とし、切る・折り曲げるなどのシンプルな技法のみを用いた立体造形の可能性を探求し、その造形表現を学習する。	1前	32			○	○		○			
○			メイキング基礎実習Ⅰ-7 (カービング技法 基礎)	硬質発泡スチロールを材料とし、カービング技法を用いた立体造形を学習する。	1後	40			○	○		○			



○		メイキング造形実習Ⅰ-1 (異素材の探求)	貴金属以外の素材や様々な技法の可能性を探求し、ジュエリーアイテムにおける展開方法と表現方法を学習する。	1前	64				○	○	○			
○		メイキング造形実習Ⅰ-2 (ブローチ制作 基礎)	ブローチやブローチピンの種類や構造、その基礎的な制作工程および仕上げ方法を学習する。	1後	32				○	○	○			
○		メイキング造形実習Ⅰ-3 (オリジナルジュエリー制作Ⅰ)	各々の表現意図および制作条件等を考慮した上での作品制作を学習する。	1後	96				○	○	○			
○		メイキング造形実習Ⅰ-4 (プレートからのジュエリー制作)	切り回し、擦り合わせ、ロウ付け作業などの基本的な技法を用いた、平面素材からのジュエリー制作を学習する。	1前	32				○	○	○			
○		メイキング造形実習Ⅰ-5 (ブレスレット・ピアス制作)	線の構成によるブレスレット及びピアスの制作工程を学習する。	1後	64				○	○	○			
○		メイキング造形実習Ⅰ-6 (オリジナルジュエリー制作Ⅱ)	自分で研磨した石を石留めしたオリジナルジュエリー制作を通して、素材の形や特性をいかしたデザイン・造形表現を学習する。	1後	72				○	○	○			
○		宝石学A-1 (宝石の基礎知識)	宝石の基礎知識。硬度や輝きなどの宝石に関係する基礎的な物理・光学的性や、宝石を種類別にそれぞれの知識について学習する。	1通	40		△		○	○	○			
○		学外研修	ジュエリー・宝石関連等の販売会・美術館・展示会場等の見学または参加を通じて、デザイン・制作知識および生産・流通・販売等の業界知識について学習する。	1通	40				○		○	○		
○		スピードテスト・基礎知識テスト	基礎的なジュエリーの制作・デザイン・宝石・ビジネスに関わる知識を学習する。	1後	12		△		○	○	○			
○		特別セミナーⅠ	本学創立の歴史や学園の遍歴を通してその学園理念を学習する。	1後	4		○			○	○			
	○	自主研修／自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	1通	136				○	○	○			
<b>ファッションアートアクセサリ専攻</b>														
	○	デザイン基礎実習Ⅱ-1 (レンダリングⅠ)	コンピュータソフトによる図面作成、及びレンダリング作業を習得する。	2前	32				○	○	○			
	○	デザイン造形実習Ⅱ-1 (ブックデザイン)	様々な素材を使用して制作したジュエリーの、オリジナルカタログを制作することで、グラフィックデザインと本の装丁方法を学習する。	2後	72				○	○	○			
	○	デザイン造形実習Ⅱ-2 (画像からのデザイン)	画像データを使用してアクセサリを制作し、画像からのイメージを活かしたジュエリーデザインを学習する。	2後	56				○	○	○			
	○	デザイン造形実習Ⅱ-3 (外部加工のジュエリー制作)	レーザーカットを用いて制作するアクセサリのデータ作成から実際の作品になるまでの工程を学習する。	2後	32				○	○	○			
	○	デザイン造形実習Ⅱ-4 (リサーチからのデザインⅡ)	社会問題の分析から、パブリックに提案するジュエリーをデザイン。パワーポイントデータによるプレゼンテーション方法を学習する。	2後	32				○	○	○			
	○	コンピューター演習Ⅱ-1 (CADによるリング制作 応用)	CADソフトを使用するジュエリー制作応用を学習する。	2通	32			○		○	○			
	○	メイキング基礎実習Ⅱ-1 (カタチの発掘)	植物のスケッチからの造形展開を学ぶ。線材、面材、塊材を使つての実制作を通して、具象形態と抽象形態におけるデザイン方法を学習する。	2前	112				○	○	○			

○	○	○	メイキング基礎実習Ⅱ-2 (素材の研究)	様々な素材や色の組み合わせから新たな価値観を発見しジュエリーを制作する方法を学習する。	2前	88					○	○	○				
○	○	○	メイキング基礎実習Ⅱ-3 (海外作家ワークショップ)	海外から講師を招聘し、自己表現をもとにした作品づくりの方法を学習する。	2前	40					○	○	○				
○	○	○	メイキング造形実習Ⅱ-1 (展示会作品制作Ⅰ)	基礎実習Ⅱ-2で発見した素材の組み合わせを展開し、ネックレスを作成。展示会に出品する。制作から展示までの一連の流れを学習する。	2前	104					○	○	○				
○	○	○	メイキング造形実習Ⅱ-2 (ブローチ制作)	色をテーマにして素材を選んだ後ブローチを制作。オリジナル金具の制作、アルマイト加工によるアルミの着色も学習する。	2後	104					○	○	○				
○	○	○	メイキング造形実習Ⅱ-3 (機能を持つジュエリー制作)	機能を持ったジュエリーのデザインおよび制作をすることで、ジュエリーにおける構造や仕組みについて学習する。	2後	96					○	○	○				
○	○	○	メイキング造形実習Ⅱ-4 (ゴールドジュエリー制作)	金を素材にしたリング制作。素材の歴史や特徴のリサーチからデザインテーマを決定し、実作するまでのコンセプトワークの方法を学習する。	2後	120					○	○	○				
○	○	○	メイキング造形実習Ⅱ-5 (テーマからのジュエリー制作)	与えられたキーワードから、各自の発想によるジュエリーを制作することで、個々の制作方法やアイデンティティの確立の方法を学習する。	2後	120					○	○	○				
○	○	○	ファッション講義及び実習Ⅱ-1 (ファッション知識)	ファッションの基礎知識を得ると共に、ファッション画の描き方からジュエリーへの展開までを学習する。	2前	32		△			○	○	○				
○	○	○	宝石学A-2 (ダイヤモンドの基礎知識)	ダイヤモンドに関する知識と実技実習。ダイヤモンドの全般的な知識と顕微鏡等の器具を用いた評価法の実技実習を学習する。	2通	40		△			○	○	○				
○	○	○	学外研修	ジュエリー・宝石関連等の販売会・美術館・展示会場等の見学または参加を通じて、デザイン・制作知識および生産・流通・販売等の業界知識について学習する。	2通	24					○	○	○				
○	○	○	自主研修／自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	2通	136					○	○	○				
○	○	○	デザイン基礎実習Ⅲ-1 (レンダリングⅡ/PCスキルⅠ)	パール、ダイヤモンドメレーを使用したジュエリーデザインのレンダリング方法を学習する。	3前	32					○	○	○				
○	○	○	デザイン造形実習Ⅲ-1 (立体造形)	ケント紙を使用して、体に対するサイズ感を意識したジュエリー制作を学習する。	3前	48					○	○	○				
○	○	○	デザイン造形実習Ⅲ-2 (ポートフォリオ)	実際におこなった展示会、ファッションショーの制作過程、作品、写真等を一冊の本にする事を学習する。	3後	72					○	○	○				
○	○	○	デザイン造形実習Ⅲ-3 (商品企画・提案/PCスキルⅡ)	他業種がジュエリーを新開発することを想定し、商品の企画提案を行う。パワーポイントを用い、プレゼンテーション手法について学習する。	3後	32					○	○	○	○			
○	○	○	デザイン造形実習Ⅲ-4 (デザイン展開 応用)	現在まで制作した作品を振り返り、分析する。その結果から、今後の展開を考察し、新作デザインを学習する。	3後	32					○	○	○				
○	○	○	デザイン造形実習Ⅲ-5 (展示会プロデュース)	個展を開催することを想定し、タイトル、展示方法、DMデザイン等のトータルプロデュースを学習する。	3後	32					○	○	○				
○	○	○	メイキング造形実習Ⅲ-1 (展示会作品制作Ⅱ)	自らテーマを設定し、展示会に向けて作品を5点以上制作する。展示会の企画、設営、DMデザイン等、トータルコーディネートを学習する。	3前	128					○	○	○				
○	○	○	メイキング造形実習Ⅲ-2 (コレクション作品制作)	テーマに沿って、ファッションショーで発表するジュエリーを制作。動きを意識し、サイズ感を大切にデザイン制作を学習する。	3前	160					○	○	○				

○	○	メーキング造形実習Ⅲ-3 (展示販売会商品制作)	学外の展示スペースを用い展示販売会を開催する。販売を目的とした作品制作、値付け、台帳制作、会場の空間デザイン及びディスプレイ、販売するまでの流れを学習する。	3通	160					○	○	○					
○		卒業制作および講評会	3年間の集大成として、知識、技術、思考力を発揮する作品を制作し、卒業制作展にて発表する。	3後	304		△			○	○	○					
○		宝石学B-1 (カラーストーン講義)	宝石の鑑別方法や、宝石を色別にそれぞれの特徴を価格の違い等も含め学習する。	3通	56		△			○	○	○					
○		ビジネス講義Ⅲ-1 (企業セミナー)	ジュエリー業界の様々な分野の方の話を直接聞く事により、ジュエリー業界の実際を広く学習する。	3前	32		○					○					○
○		学外研修	ジュエリー・宝石関連等の販売会・美術館・展示会場等の見学または参加を通じて、デザイン・制作知識および生産・流通・販売等の業界知識について学習する。	3通	36					○	○	○					
○		特別セミナーⅡ	卒業後の企業就職や独立に向けて、社会人としてのモノ作りとの取り組み方について学習する。	3後	4		○				○	○					
○		特別セミナーⅢ	外部から講師を招聘し、専門分野における最新の情報・知識を学習する。	3通	12		○				○						○
○		卒業テスト	総合的なジュエリーの制作・デザイン・宝石・ビジネスに関わる専門知識を学習する。	3後	4					○	○	○					
	○	自主研修／自由制作	これまで学んできた技術・知識をさらに向上させるために自主的に研究・学習する。	3通	136					○	○	○					
シルバーアクセサリ&クラフト専攻																	
○	○	デザイン基礎実習Ⅱ-1 (レンダリングⅠ)	宝石を用いた高級宝飾品の画像をハイライトレンダで模写することで描写力を学習する。	2前	32					○	○	○					
○	○	デザイン基礎実習Ⅱ-2(立体造形 応用)	抽象的なモチーフからのデザイン展開、粘土による立体造形を学び、形状、量感、質感の表現方法を学習する。	2前	32					○	○	○					
○	○	デザイン基礎実習Ⅱ-3(ロゴデザイン/PCスキルⅠ)	ロゴデザインをイラストレーター、フォトショップを用いて行いロゴについて学習する。	2前	32					○	○	○					
○	○	デザイン造形実習Ⅱ-1(提案のためのデザイン)	ジュエリーブランドを選びジュエリーデザインの提案を通して、デザインにおける新しいアプローチ方法を学習する。	2前	32					○	○	○					
○	○	デザイン造形実習Ⅱ-2(オーダーデザイン)	ターゲットから既存のブランドを設定しオーダーデザインについて学習する。	2後	32					○	○	○					
○	○	デザイン造形実習Ⅱ-3(ポートフォリオⅠ)	作品のテーマやコンセプトを他人に伝える為のツールとしてポートフォリオを制作する。自作品を撮影してPC上で配置や画像加工等の技術を学習する。	2後	32					○	○	○					
○	○	デザイン造形実習Ⅱ-4(コレクションデザイン)	展示会に向けてオリジナルブランドを設定し実制作する為のコレクションデザインを学習する。	2後	40					○	○	○					
○		コンピューター演習Ⅱ-1 (CADによるリング制作 応用)	CADソフトを使用してのジュエリー制作を学習する。	2通	32				○		○	○					
○		コンピューターデザイン	グラフィックソフト、プレゼンソフトを使用して企画・デザインの方法を学習する。	2通	24					○	○	○					

○	○	メーキング基礎実習Ⅱ-1(彫り技法)	毛彫り・片切り等の制作方法を学び、タガネの彫り技法によるテクスチャーのパターン展開、制作方法を学び、ジュエリーアイテムでの表現方法を学習する。	2前	64					○	○	○			
○	○	メーキング基礎実習Ⅱ-2(着色技法)	アルミニウムのアルマイト着色、チタンの陽極酸化による着色技法を学び、ジュエリーを制作する方法を学習する。	2前	72					○	○	○			
○	○	メーキング基礎実習Ⅱ-3(色金/木目金)	色金の特性や、煮色による着色実習を行う。また木目金の制作方法を学び、ジュエリー制作を制作する方法を学習する。	2前	72					○	○	○			
○	○	メーキング基礎実習Ⅱ-4(ワックス石座/量産実習Ⅰ)	ハードWAXから覆輪枠の石座を削りだし石枠付きの原型を制作する。またシリコンゴムでの量産技法を原型制作、ゴム型制作、インジェクション射出までを学習する。	2前	64					○	○	○			
○	○	メーキング基礎実習Ⅱ-5(海外作家ワークショップ)	ドイツより講師3名を招き、ジュエリー制作を学ぶ。様々な素材を使用することから素材の特性を探り、試作を繰り返し一つの作品へと結実させる方法を学習する。	2後	40					○	○	○			
○	○	メーキング基礎実習Ⅱ-6(打ち出し技法)	打ち出し技法の原理と制作技術、ヤニ台・オタフク槌等の使用方法、打ち出しタガネの制作を学習する。	2後	80					○	○	○			
○	○	メーキング基礎実習Ⅱ-7(ワックス造形 応用)	ハードWAXを使用して動物のペンダントを制作する。写実的に制作する方法として動物園での撮影、スケッチからペンダント原型としての形状模索までを学習する。	2後	80					○	○	○			
○	○	メーキング基礎実習Ⅱ-8(鍛金技法)	鍛金技法の原理と制作技術、木臼・当て金・延べ槌等の使用方法を学び、工芸品やジュエリーの制作を学習する。	2後	32					○	○	○			
○	○	メーキング造形実習Ⅱ-1(オリジナルジュエリー制作Ⅲ)	設定したテーマを元にデザインし、ジュエリーとして制作するプロセスと展示方法を学習する。	2前	88					○	○	○			
○	○	メーキング造形実習Ⅱ-2(レザーアイテム制作)	オリジナルデザインによるレザーウォレットの制作。型紙制作から革の裁断、組み立て、ダブルステッチまでを学習する。	2後	72					○	○	○			
○	○	メーキング造形実習Ⅱ-3(コレクション作品制作)	展示作品の制作を前提としたテーマの模索方法、ターゲット設定、デザイン展開などを行い、3点以上のオリジナルジュエリー群の制作を学習する。	2後	120					○	○	○			
○	○	宝石学A-2(ダイヤモンドの基礎知識)	ダイヤモンドに関する知識と実技実習。ダイヤモンドの全般的な知識と顕微鏡等の器具を用いた評価法の実技実習を学習する。	2通	40					○	○	○			
○	○	学外研修	ジュエリー・宝石関連等の販売会・美術館・展示会場等の見学または参加を通じて、デザイン・制作知識および生産・流通・販売等の業界知識について学習する。	2通	24					○	○	○			
	○	自主研修/自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	2通	136					○	○	○			
○	○	デザイン基礎実習Ⅲ-1(PCスキルⅡ)	フォトショップとイラストレーターの基本操作を習得し、学習する。	3前	32					○	○	○			
○	○	デザイン造形実習Ⅲ-1(外部加工のジュエリー制作)	オリジナルのデザインから外部業者にレーザーカットを発注し、完成したパーツを組み立てる。外部業者発注の方法と平面的デザインを立体に組み立てる工夫を学習する。	3前	48					○	○	○			
○	○	デザイン造形実習Ⅲ-2(展示販売会の企画)	展示販売会の店内装デザインを行う。内装デザイン、ディスプレイ、商品展開だけではなく、立地、収支等の経営知識を学習する。	3前	32					○	○	○			
○	○	デザイン造形実習Ⅲ-3(ポートフォリオⅡ)	作品のテーマやコンセプトを他人に伝える為のツールとしてポートフォリオを制作する。自作品を撮影してPC上で配置や画像加工等の技術を学習する。	3後	64					○	○	○			
○	○	デザイン造形実習Ⅲ-4(商品企画/プレゼンテーション)	異業種からジュエリーラインが立ち上げた想定のもと、企画デザイン、プレゼンテーションまでを行い、商品企画の一連の流れを学習する。	3後	32					○	○	○	○		

○	デザイン造形実習Ⅲ-5(コンテスト用デザイン)	デザインコンテストに向けたジュエリーの企画およびデザインを学習する。	3後	40					○	○	○			
○	メイキング造形実習Ⅲ-1(量産実習Ⅱ)	一つのパーツを量産してつなげてブレスレットを制作する。デザインとパーツの接続概念と制作技術を学習する。	3前	96					○	○	○			
○	メイキング造形実習Ⅲ-2(ターゲットジュエリー制作)	与えられたデザインテーマを基にターゲットに沿ったデザイン提案とその実作制作を学習する。	3前	160					○	○	○			
○	メイキング造形実習Ⅲ-3(展示販売会商品制作)	学外の展示スペースを用い展示販売会を開催する。販売を目的とした作品制作、値付け、台帳制作、会場の空間デザイン及びディスプレイ、販売するまでの流れを学習する。	3通	112					○	○	○			
○	メイキング造形実習Ⅲ-4(電気鋳造)	エレクトロフォーミング電気鋳造の原理を理解して単一電池で電鋳システムを構築、電鋳原型となる中子を制作してメッキまでを学習する。	3後	72					○	○	○			
○	卒業制作および講評会	3年間の集大成として、知識、技術、思考力を発揮する作品を制作する。卒業制作展にて発表する。	3後	312		△			○	○	○			
○	宝石学B-1(カラーストーン講義)	宝石の鑑別方法や、宝石を色別にそれぞれの特徴を価格の違い等も含め学習する。	3通	56		△			○	○	○			
○	ビジネス講義Ⅲ-1(企業セミナー)	ジュエリー業界の様々な分野の方の話を直接聞く事により、ジュエリー業界の実際を広く学習する。	3前	32		○				○	○			
○	学外研修	ジュエリー・宝石関連等の販売会・美術館・展示会場等の見学または参加を通じて、デザイン・制作知識および生産・流通・販売等の業界知識について学習する。	3通	36					○	○	○			
○	特別セミナーⅡ	卒業後の企業就職や独立に向けて、社会人としてのモノ作りとの取り組み方について学習する。	3後	4		○				○	○			
○	特別セミナーⅢ	外部から講師を招聘し、専門分野における最新の情報・知識を学習する。	3通	12		○				○	○			○
○	卒業テスト	ジュエリーの制作・デザイン・宝石・ビジネスに関わる知識を試験を通して確認する。	3後	4					○	○	○			
○	自主研修/自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	3通	136					○	○	○			
ハイジュエリー専攻														
○	デザイン基礎実習Ⅱ-1(レンダリングⅠ)	宝石を用いた高級宝飾品の画像を模写することで描写力を学習する。	2前	40					○	○	○			
○	デザイン基礎実習Ⅱ-2(カラーストーンのジュエリー)	18金と宝石を用いて、テーマ[フルーツ&ベジタブル]に沿ったジュエリーデザインを学習する。	2後	32					○	○	○			
○	デザイン造形実習Ⅱ-1(立体造形 応用Ⅰ)	多肉植物からイメージした造形物を制作することで立体造形を学習する。	2前	48					○	○	○			
○	デザイン造形実習Ⅱ-2(展示会用ジュエリーの提案)	展示販売会の店内装デザインを行う。内装デザイン、ディスプレイ、商品展開だけではなく、立地、収支等の経営知識を学習する。	2後	64					○	○	○			
○	デザイン造形実習Ⅱ-3(立体造形 応用Ⅱ)	紙を使用した造形物と宝石を組み合わせた立体造形を学習する。	2後	32					○	○	○			

○	デザイン造形実習Ⅱ-4(ポートフォリオ)	二年次に制作した課題をPCでまとめ、1冊の作品集の制作を学習する。	2後	40					○	○	○							
○	コンピューター演習Ⅱ-1 (CADによるリング制作 応用)	CADソフトを使用してのジュエリー制作応用を学習する。	2通	32				○		○	○							
○	メイキング基礎実習Ⅱ-1 (彫り留め技法)	小粒石(メレー)を地金面に彫り留めする技法を学習する。	2前	32					○	○	○							
○	メイキング基礎実習Ⅱ-2 (マス留め技法)	小粒石(メレー)を地金面に升状の中に石留めするマス留め技法を学習する。	2前	32					○	○	○							
○	メイキング基礎実習Ⅱ-3(パヴェ留め技法 Ⅰ)	小粒石(メレー)を敷き詰めて石留めするパヴェセッティング技法を学習する	2前	48					○	○	○							
○	メイキング基礎実習Ⅱ-4(マリッジリング)	マリッジリングで良く用いられるエタニティーリングを制作する技法を学習する。	2前	64					○	○	○							
○	メイキング基礎実習Ⅱ-5(エンゲージリング)	エメラルドカットとペアシェイプカットの宝石を使ったリングの制作及び、シルバーとパラジウムの合金の加工方法を学習する。	2前	72					○	○	○							
○	メイキング基礎実習Ⅱ-6(イヤリング)	植物モチーフからイメージした造形とパールを用いたシルバーイヤリングの制作を学習する。	2前	48					○	○	○							
○	メイキング基礎実習Ⅱ-7(ネックレス)	様々なカットの石座制作と石留め方法を学習する。	2後	72					○	○	○							
○	メイキング造形実習Ⅱ-1(パヴェ留め技法 Ⅱ)	小粒石(メレー)を敷き詰めて石留めするパヴェセッティング技法を用いてテーマに合わせたデザインのペンダント制作を学習する。	2前	72					○	○	○							
○	メイキング造形実習Ⅱ-2(展示会作品制作)	18金と宝石を用いて、テーマ[フルーツ&ベジタブル]に沿ったジュエリー制作を学習する。	2後	192					○	○	○							
○	メイキング造形実習Ⅱ-3(七宝技法)	七宝技法と宝飾技法を組み合わせたジュエリー制作を学習する。	2後	128					○	○	○							
○	TOOLS	宝飾に必要な工具の加工を学習する。	2通	24					○	○	○							
○	宝石学A-2(ダイヤモンドの基礎知識)	ダイヤに関する知識と実技実習。ダイヤモンドの全般的な知識と顕微鏡等の器具を用いた評価法の実技実習を学習する。	2通	40					○	○	○							
○	学外研修	ジュエリー・宝石関連等の販売会・美術館・展示会場等の見学または参加を通じて、デザイン・制作知識および生産・流通・販売等の業界知識について学習する。	2通	24					○	○	○							
	○ 自主研修/自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	2通	136					○	○	○							
○	デザイン造形実習Ⅲ-1(ジュエリーコレクション)	宝石を用いた高級宝飾品の画像を模写することで描写力を学習する。	3前	32					○	○	○							
○	デザイン造形実習Ⅲ-2(リフォームジュエリー)	リフォームデザインの実際の流れ・原価計算等の必要な知識を学び、リフォームデザインを学習する。	3前	32					○	○	○							
○	デザイン造形実習Ⅲ-3(卒業制作デザイン)	3年間の集大成として、知識、技術、思考力を発揮する作品をデザインする。メイキング授業にて実作する。	3前	40					○	○	○							

○	デザイン造形実習Ⅲ-4(コンテンツ用デザイン)	デザインコンテストに向けたジュエリーの企画およびデザインを学習する。	3後	32				○	○	○		
○	デザイン造形実習Ⅲ-5(ブライダルジュエリー)	ブライダルジュエリーデザインの実際の流れ・原価計算等の必要な知識を学び、ブライダルジュエリーの企画・商品提案方法を学習する。	3後	32				○	○	○		
○	デザイン造形実習Ⅲ-6(オリジナルブランド企画)	自身のブランドを設定し、ブランドの商品開発企画やプレゼンテーション方法等を学習する。	3後	32				○	○	○	○	
○	デザイン造形実習Ⅲ-7(プロセスブック制作)	3年間の集大成として、今まで制作してきた作品をまとめたプロセスブックを制作する事でパソコンの使い方、本の装丁などを学習する。	3後	40				○	○	○		
○	メイキング基礎実習Ⅲ-1(石留め研究)	2年次では行っていない石留め技法や自身の作品に向けた技術を実作を通して研究する。	3前	64				○	○	○		
○	メイキング造形実習Ⅲ-1(18金ジュエリー)	18金を使用しオリジナルデザインのジュエリーを制作することで、コンセプト立案・デザイン提案・構造研究・制作までの1通りの流れを実作を通して学習する。	3前	200				○	○	○		
○	メイキング造形実習Ⅲ-2(展示会作品制作)	学外の展示スペースを用い展示販売会を開催する。販売を目的とした作品制作、値付け、台帳制作、会場の空間デザイン及びディスプレイ、販売するまでの流れを学習する。	3通	136				○	○	○		
○	卒業制作および講評会	3年間の集大成として、知識、技術、思考力を発揮する作品を制作する。卒業制作展にて発表する。	3後	352	△			○	○	○		
○	宝石学B-1 (カラーストーン講義)	宝石の鑑別方法や、宝石を色別にそれぞれの特徴を価格の違い等も含め学習する。	3通	56	△			○	○	○		
○	ビジネス講義Ⅲ-1 (企業セミナー)	ジュエリー業界の様々な分野の方の話を直接聞く事により、ジュエリー業界の実際を広く学習する。	3前	32	○				○	○		
○	学外研修	ジュエリー・宝石関連等の販売会・美術館・展示会場等の見学または参加を通じて、デザイン・制作知識および生産・流通・販売等の業界知識について学習する。	3通	36				○	○	○		
○	特別セミナーⅡ	卒業後の企業就職や独立に向けて、社会人としてのモノ作りとの取り組み方について学習する。	3後	4	○				○	○		
○	特別セミナーⅢ	外部から講師を招聘し、専門分野における最新の情報・知識を学習する。	3通	20	○				○	○		○
○	卒業テスト	ジュエリーの制作・デザイン・宝石・ビジネスに関わる知識を試験を通して確認する。	3後	4				○	○	○		
○	自主研修/自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	3通	136				○	○	○		
合計				141	科目	8920	単位時間(単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件＝卒業までに必要な履修科目をすべて履修していること。 必修科目のすべてを履修していること。自由選択科目は対象外。	1学年の学期区分	2期
履修方法＝課題物評価では『F』以外、試等では70点以上で履修となる。	1学期の授業期間	26週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。